

植松建興 個人向け元請営業強化 リフォーム事業に本格参入



開設した個人向けショールーム

地区大手鉄鋼三三長・植松孝康氏)の関与。今月より個人向けリフォーム事業へ本格参入した。3年後をめどに個人向けリフォーム事業で売上高年3億円を目指す。

植松は主に住宅向けに鉄鋼三三長製品の加工、販売を手掛ける1949(昭24)年創業の老舗特約店。植松建興は植松の施工部門と、静岡東部地区、神奈川東部、山梨県南部を営業エリアとする。「ユーザーは内外装を同時にリフォームする際、内装リフォームスタートした。

△業者以外装リフォームを含めて一貫して発注するケースが多く、我々外装業者が元請けとなるケースが少なかった(植松社長)と、内装から外装工事までの一貫受注で、金属屋根・外装建材の販売増など相乗効果を狙う。個人向け内装リフォーム事業進出に伴い、太陽光発電システムの販売、施工を手掛ける。

7月の愛知県公共工事取り扱い件数、3カ月ぶり増 東日本建設業保証

東日本建設業保証愛知支店は、2015年7月の「前払い金保証件数、同1.7%」から発注が増加した。請負金額は中部地方整備局からの発注が前

と、愛知県内の公共工事の取り扱い件数は前年同月比2.1%増の1102件と、3カ月ぶりに増加した。請負金額は同6.0%増の530億円、保証金額(前払い金額)は同5.7%増の168億円となった。

取扱件数は、国(29件、前年同月比38.3%減)、独立行政法人(17件、同23.5%減)は減少したが、県(219件、同4.3%増)および市町村(787件、同1.7%)から発注が増加した。

7月発注分の工事では、請負金額が5億円以上の大型工事は、中日本高速道路発注の名古屋第二環状自動車道飛鳥木場高架橋下部工事(請負金額28億円)、清須市発注の同市本庁舎増築改修工事(同28億円)、岡崎市発注の同市民会館ホール棟改修工事(同26億円)など全10件。

今年4月からの累計取扱件数は3231件(対前年度比3.4%減)、累計請負金額2366億円(同4.1%減)、累計保証金額916億円(同1.9%減)。

6月の岐阜県建築着工統計
新設住宅着工面積10カ月ぶり増

岐阜県発表の2015年6月の岐阜県建築着工統計によると、新設住宅着工戸数は前年同月比12.7%増の1028戸と、4カ月連続で増加した。建築物着工床面積は19万2千平方メートル、同21.1%増と10カ月ぶりに増加した。新設住宅のうち、木造は849戸(前年同月比24.9%増、3カ月ぶりの増加)、非木造は179戸(同22.8%減、3カ月ぶりの減少)で、うち鉄骨造は158戸(同9.0%増)だった。

鋼板計管角型管計	1,000	112	1,040	74
鋼管	766	102	1,319	104
鋼角	9,988	103	12,152	98
鋼管	243	103	330	91
鋼角	208	101	239	86
鋼管	2,653	101	6,814	97
鋼角	1,310	105	1,218	91
鋼管	948	98	1,102	100
鋼角	5,362	102	9,703	96

陽光向けなどに陰りが出た。表面処理、編調、工作機械向けなどに好要素もあった。在庫は調整局面が続いたが、品種によっては販売が振るわずに横ばいまたは漸増した。

鋼管類については、構造用鋼管などは、構造用鋼管などの販売が大幅に増えた。ガス管も増え、全体で販売は前月比2%増加。在庫は調整局面が続き漸減した。



「鉄と親しんだ思い出」

スナップ 中部

○：子供たちの楽しい夏休みは、間もなく終了する。子どもたちの思い出作りにも奔走した方も多いのでは。日本鉄鋼連盟も子供たちの夏休みの思い出づくりの一役を買った。

○：写真は鉄連がこのほど名古屋市内で開催した「鉄の教室」での一コマ。アルミ箔を巻いたプラスチックコップ「ライデン瓶」に発生させた静電気をため、手を近づけ静電気の通電を体感するもの。

○：子供たちの表情を見ると、実験は成功したようです。思い出にも、鉄は私達の生活に欠かせないものであることも忘れないうかがいよう。

全特協・名古屋販売技士2級講座スタート

全日本特殊鋼流通協会名古屋支部(支部長・植田芳辰)と名古屋市長は20日、名古屋市長の東区東区会館で「第35回特殊鋼販売技士2級研修講座」第1回講義を開催、地区流通の

若手社員など65人が出席した。席上、中島伸夫人材育成部委員長(中島特殊鋼社長)は「2級は3級と比べて、より実際の業務に役立つ内容の習得を目指すこととなる。業務後の講義で疲れがあると思うが、集中して取り組んでほしい」と呼び掛けた。

今年度の2級講義は67人が全15回の講義を受け、資格取得を目指す。会では大同特殊鋼技術サービス担当の多田雅人氏が講師を務め、鋼の変態と状態図といった熱処理の基礎をテーマにレクチャーを行った。

も老朽化している。推移を大手部品から電子不足による人件費細加工まで貫くことが「コストアップの典型」の結果として、その摩擦に耐えきれず撤退しは増えない。

「コタは国内生産のていく流通・加工業者を維持し、なんと自動車生産スタイル国内に仕事を落とすそのものが変化しようとしている。しかし、とする中で「参加者が製造業も同じ感覚減少するのはむしろ歓迎はない。原価計算の迎」というムードが、掘と実際の鋼材使用量とはいえない。

様々な使用環境な多様性を失い系列化する市場というものは、逆を市場というものは、逆に衰退を加速しないか。国際競争の波の中で「メーカー一人勝ち」の現状に疑問の声も出ている。

ともあれ、変化への対応は各段階で急務。必要不可欠な文句を言っても変化は止められないという現実はある。知恵を出し、必要な間違ったビジネスモデルを修正し、自動車という産物を変化させていく取り組みが、地区業界でも喫緊の課題になっている。

中部協組 7月の磨棒鋼・CH鋼線生産 6%減、3万2630トン

中部磨棒鋼協同組合がまとめた組合員各社の2015年7月の磨棒鋼・冷間圧造用鋼線合計の生産、出荷は、稼働日数は6月と同等だったものの前月比微減の3万2千630トンとなった。主要向け先の自動車関連ではトヨタの自当たり生産台数が前月より若干増加した一方、ホンダをはじめとした他自動車メーカー

非自動車分野では、建設機械が中国の内需減退を背景に、中・大型機の生産が大きく低迷した。補助金制度などによる内需の底堅さが続く工作機械、産業機械関連はこれまでの水準を保った。

前年同月はトヨタの日当たり生産が今年と同程度だった中、稼働

67人が合格目指す

67人が全15回の講義を受け、資格取得を目指す。会では大同特殊鋼技術サービス担当の多田雅人氏が講師を務め、鋼の変態と状態図といった熱処理の基礎をテーマにレクチャーを行った。